

阪南市総合計画策定に係る 地区懇談会

開催状況報告書

阪南市

目次

1	地区懇談会の概要	1
	(1) 目的.....	1
	(2) 開催概要	1
	(3) プログラム	1
2	ワークショップのまとめ	2
	(1) 阪南市の魅力・気に入ってるポイント	2
	(2) 地区で気になること・課題と感じていること.....	3
	(3) 目指すまちづくりの方向性.....	8
	(4) まとめ.....	12

1 地区懇談会の概要

(1)目的

現在策定中の次期総合計画を推進するために重要となる市民の意見を聴取し、計画理念へ反映するために地区懇談会を開催しました。

(2)開催概要

日時 : 令和3年2月6日(土曜) 14時~16時

実施方法 : オンライン会議(一部現地参加)によるワークショップ

参加者 : 計17名(地区別の参加状況は下表のとおり。)

地区	人数
尾崎	3(2)
東鳥取	3
西鳥取	6(2)
下荘	5
合計	17(4)

注 : ()内は、現地参加者数

開催の形式としては、WEB並びに現地でのグループに分かれた形式としました。グループは、①グループ1「下荘地区」、②グループ2「尾崎・西鳥取地区」、③グループ3「東鳥取地区」、④現地グループ「尾崎・西鳥取地区」の4グループとしました。

(3)プログラム

- ①市長挨拶
- ②資料の説明
 - ・地区懇談会の目的と概要
 - ・新たな総合計画にかかる基礎情報(抜粋)
- ③ワークショップ[各グループで意見交換開始]
 - ・自己紹介(阪南市の魅力・気に入っているポイントの共有)
 - ・地区で気になること、課題と感じていることの共有
 - ・めざすまちづくりの方向性の共有
- ④閉会の挨拶【市長、事務局】

(4)まちづくりアンケート

新たな総合計画の理念へ反映するために、地区懇談会とあわせて、市民の意見を聴取するため、HPにて「まちづくりアンケート」を実施しました。

回答者 : 計27名

2 地区懇談会ワークショップ及びまちづくりアンケートのまとめ

(1) 地区懇談会における阪南市の魅力・気に入っているポイント

自己紹介とともに、アイスブレイクとして、「阪南市の魅力・気に入っているポイント」を発表していただきました。グループごとの内容は、次のとおりです。

地区	内容
グループ1 下荘	<ul style="list-style-type: none"> ・安全なところ ・人のつながり ・近所に親がいる ・広い公園、子どもが安心 ・たこ公園など（自然・公園）
グループ2 尾崎・西鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・海にすぐ行ける ・自然が豊か ・ほどよく田舎 ・ゆったりした空気感 ・旧街道、歴史的建物 ・浪速正宗のお酒 ・子育てがしやすい <ul style="list-style-type: none"> ・地域プレイヤーが多い（事業者、趣味で活躍、地元根付いている人） ・濃密なコミュニティ ・人の温かさ ・子育てしやすい
グループ3 東鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・静かで自然が多い ・自然が豊富 ・地域の関係が強い
グループ4 （現地）尾崎・西鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・山・海などの自然が多い ・自然が豊富 ・大阪まで40分と近い ・花火、まつり

※グループディスカッションの一環であるものの、プログラム進行上、直接関係しないため、表形式でまとめました。

(2) まちづくりアンケートにおける阪南市の好きなところ

まちづくりアンケートの回答は、地区懇談会同様、回答者の居住区域で分類しました。地区グループごとの内容は、次のとおりです。

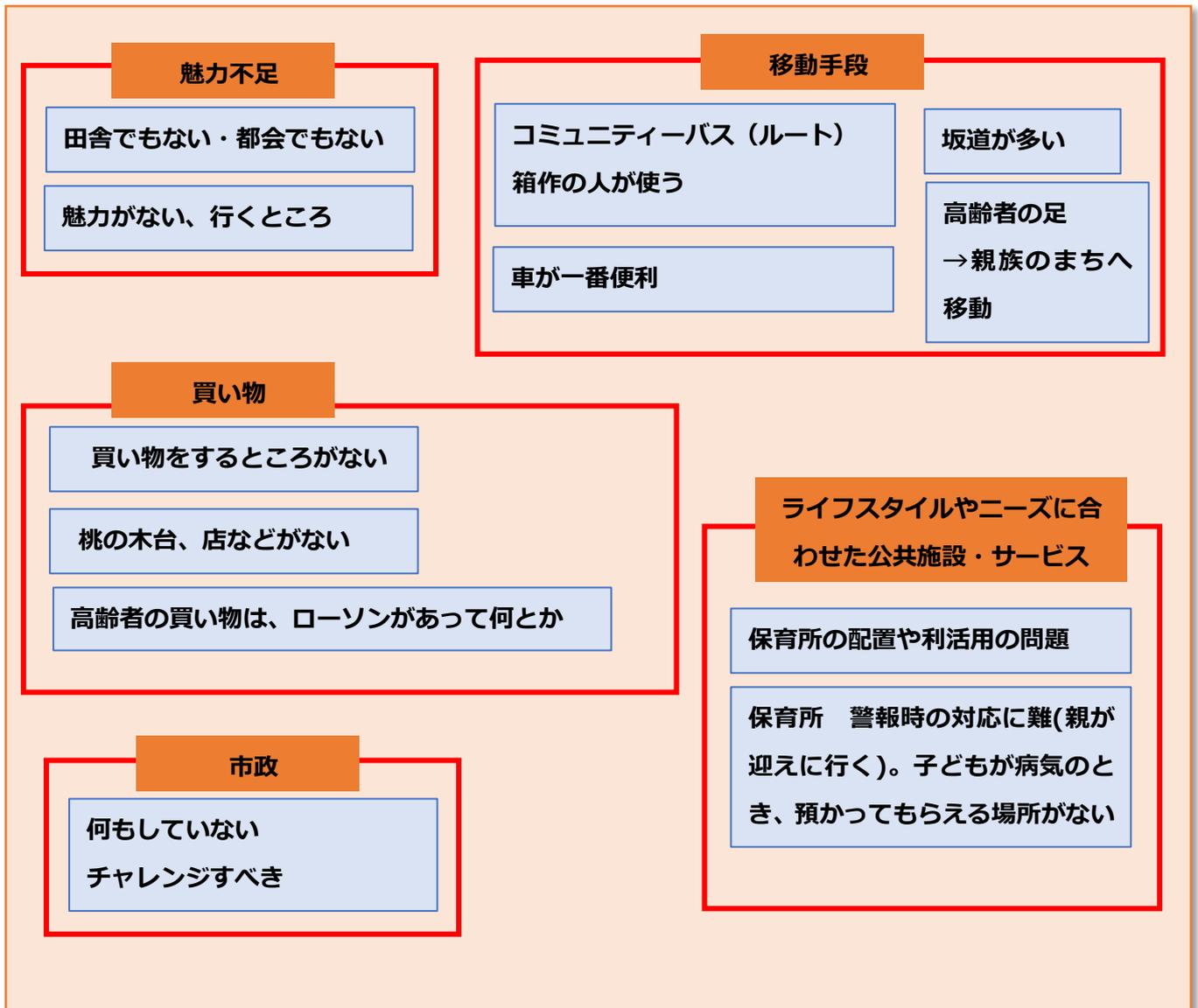
地区	内容
グループ1 下荘	<ul style="list-style-type: none"> ・海と山と自然が豊か ・海洋教育が盛んで、海産物も豊富 ・海辺に広いせんなん里海公園がある <ul style="list-style-type: none"> ・田舎の静かな暮らしができる ・大阪へのアクセスがよい
グループ2 尾崎	<ul style="list-style-type: none"> ・海にすぐ行ける ・夕日がきれい ・自然がたくさんある ・旧街道、歴史的建物 ・大阪へのアクセスがよい ・子育てがしやすい <ul style="list-style-type: none"> ・治安が良い ・空気がきれい ・人情味のあるまち ・祭り文化 ・観光地が近い
グループ3 西鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か ・安全なまち ・空気がきれい <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物がおいしい ・ちょうどいい田舎
グループ4 東鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地域の環境がよい ・気候が安定している ・魚がおいしい ・自然が豊か <ul style="list-style-type: none"> ・歴史がある ・優しい人が多い ・地域のつながりが強い ・交通アクセスがよい
グループ5 市外	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か ・海と山が近い <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中でウォーキングなどができる ・農園などの環境を整えやすい

(3) 地区で気になること・課題と感じていること

① 地区懇談会ワークショップ

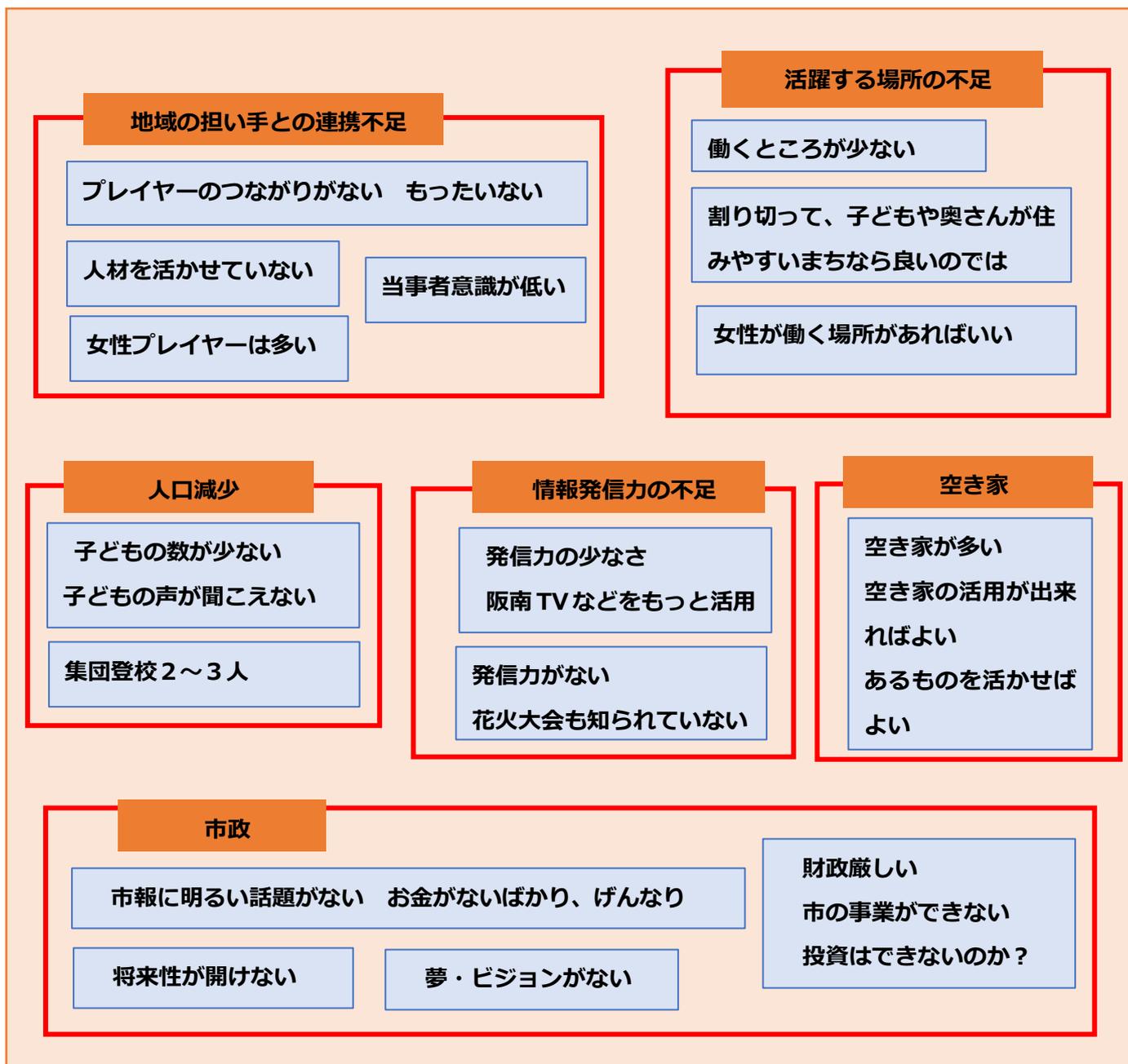
地区懇談会のグループごとのワークショップでは、地区で気になること・課題と感じていることを共有しました。グループごとの内容は、次のとおりです。

グループ1 下荘地区



総括

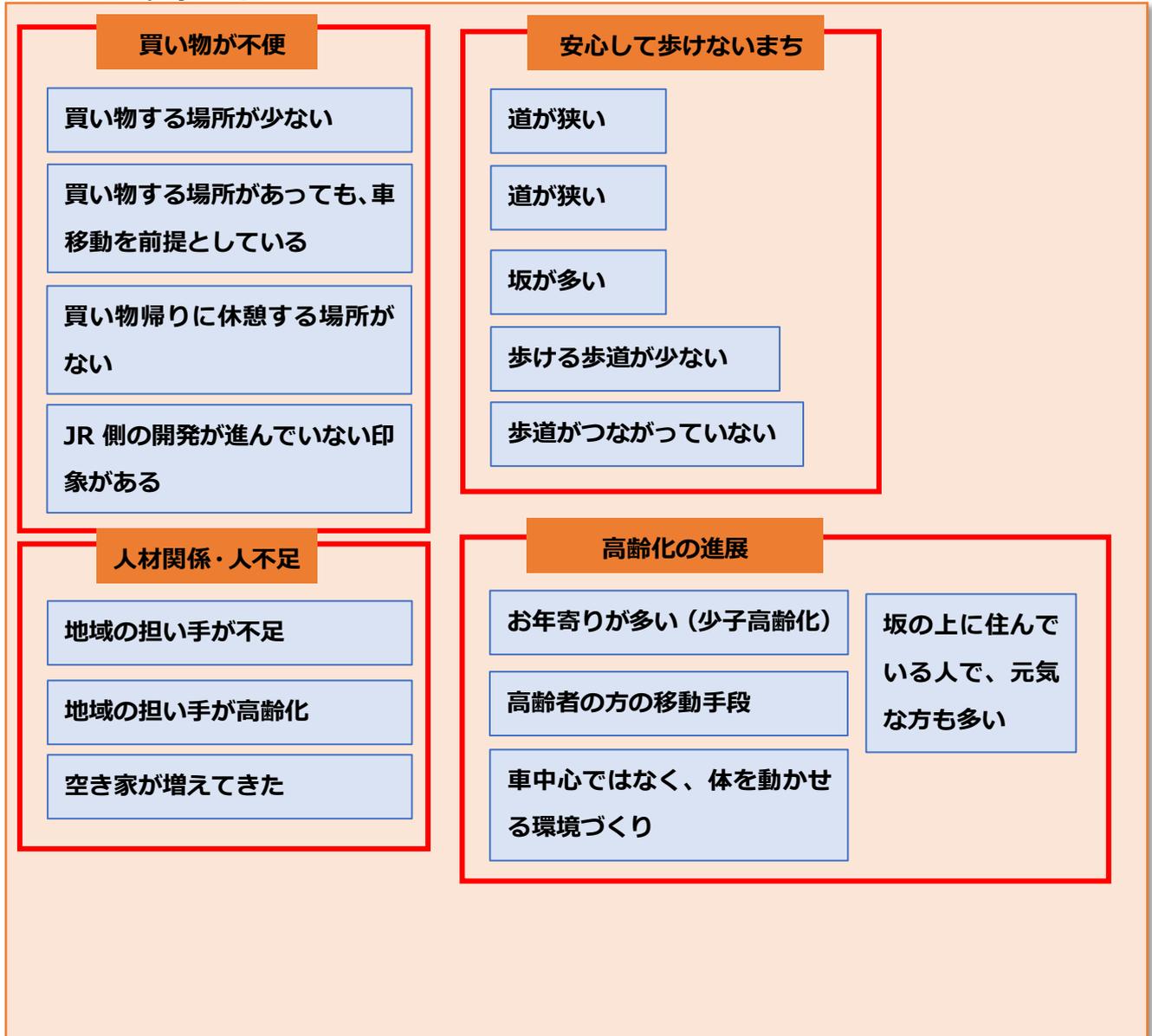
- 高齢化が進む中、公共交通が不便なままでは、どんどん流出してしまう。
- 「子育て支援」を謳っているが、保育所などが市民の保育ニーズに応えていない。
- 阪南市の魅力が、はっきりしていない。明確な特徴がない。
- 市政として、チャレンジすべきではないか。



総括

- 市政は、将来に希望が持てるビジョンを提示してほしい。
- （複数から同意見あり）自然環境など外の人から見ると魅力的なところはたくさんある阪南市だが、うまく伝えきれていない。外の人どころか、阪南市の人にすら、うまく伝えられておらず、情報の発信力が課題。
- まちづくりに積極的に取り組んでいる住民は多い。ただそれぞれが単独で活動しており、連携できればもっと大きな取組ができる。行政も、それらの人が活躍できるように協力してほしい。

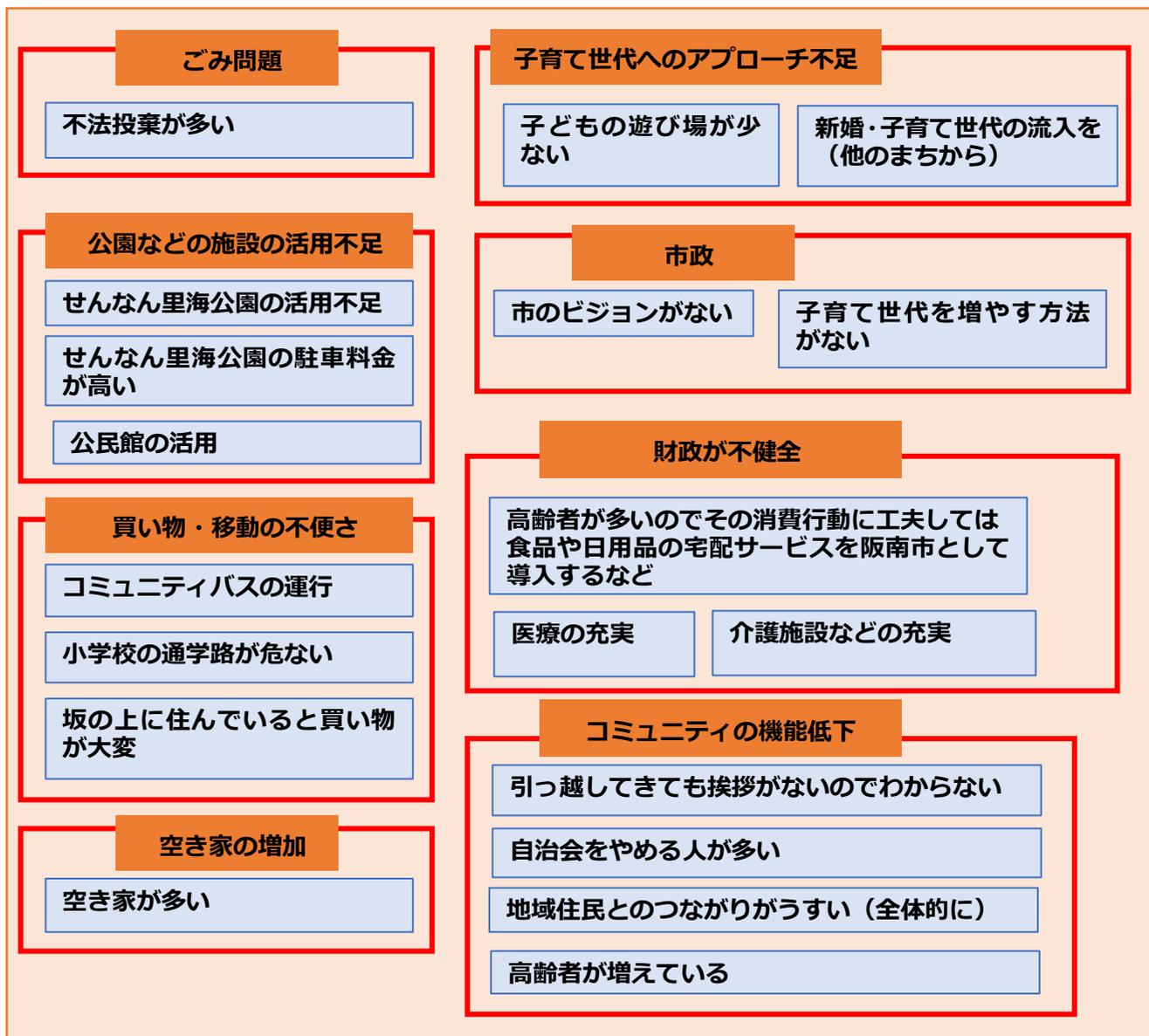
グループ3 東鳥取地区



総括

- （複数から同意見あり）買い物する場所が少なく、別の地区に出でいかないと生活に必要な物品を購入することができないなど、生活を地区内で完結させることが難しい。
- （複数から同意見あり）車中心の生活となっており、歩道がつながっていなかったり、歩道が狭かったりなど市内を歩くという習慣が根付きにくい状況のため、体を動かせる環境づくりが必要。
- （複数から同意見あり）少子高齢化に伴う地域の担い手（自治会の運営者など）が高齢化し、担い手不足が深刻となっており、空き家の増加も気になる。

グループ4（現地）尾崎・西鳥取地区



総括

- 施設の利活用としては、せんなん里海公園の駐車料金が高く利用促進につながっておらず、里海公園自体の利活用が進んでいない。また、公民館の利用者が固定化しており、新しい人の流入が起きていない。
- 市内の移動について、移動が不便な場所では、お店に行って買い物をするスタイルからの脱却するのも一つ。また、道路について、小学校の通学路が狭く危ないところもあるように見受けられる。
- 子育てについて、世代へのアプローチと市政のリーチが不足している。アプローチでは、子育て世代の遊び場が少ないこと、リーチでは子育て世代を増やす市の姿勢が見られないことが課題。
- 財政については、泉南地域で展開している食品や日用品の宅配サービスを阪南市として導入し、高齢者の消費を増加させてはどうか。
- （複数から同意見あり）コミュニティの機能低下では、全体的に地域住民とのつながりが薄く、新しく入居されても挨拶などが無いため、関係性を構築する糸口が見えないことが課題。

②まちづくりアンケート

まちづくりアンケートにおいて、阪南市の気になること・課題と感じていることの内容は、次のとおりです。

地区	要点	
グループ1 下荘	<ul style="list-style-type: none"> 山が手つかずで、荒れている 田舎ゆえに楽しみが少ない 日常の買い物が不便 若年層が集える場所や発信設備などが少ない 空き店舗、空き家、学校跡地など、有効活用されていないものが多い 	<ul style="list-style-type: none"> せんなん里海公園の駐車場料金が高い 道や公園遊具の補修ができていない 車がないと移動が難しい 働く場所が少ない
グループ2 尾崎	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の活躍の場が少ない 活気が少ない 空き家、空き店舗が増えていて、有効活用されていない 水道代が高い 自治会を辞める人が多い 下水道の整備が進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> ボール遊びや花火ができる場所が少ない 財政方針が見えない 人づきあいが減ってきている 集客施設がない 空き家、空き地が増加 外で遊ぶ子どもが少ない
グループ3 西鳥取	<ul style="list-style-type: none"> 道が狭い 観光地がない 働く場所が少ない 遊べる場所がない 海岸にゴミが多い 自治会を辞める人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> バスが少ない 産業が少ない 車以外でせんなん里海公園へのアクセスが悪い 自然を利用したアクティビティを活かしきれていない
グループ4 東鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ置き場までゴミを運ぶことは困難な高齢者が増えてきているが、自宅前回収は不可 産業が少ない 訪れる人が少ない 駅の周りに食事などの店がない 	<ul style="list-style-type: none"> 公園遊具などが古い 外から人を呼ぶような政策がない 財政難 交通が不便 給食で食品ロスが発生（美味しくないのでの食べ残し）
グループ5 市外	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設がない 高齢者の活躍の場が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 働く場所が少ない

主な意見

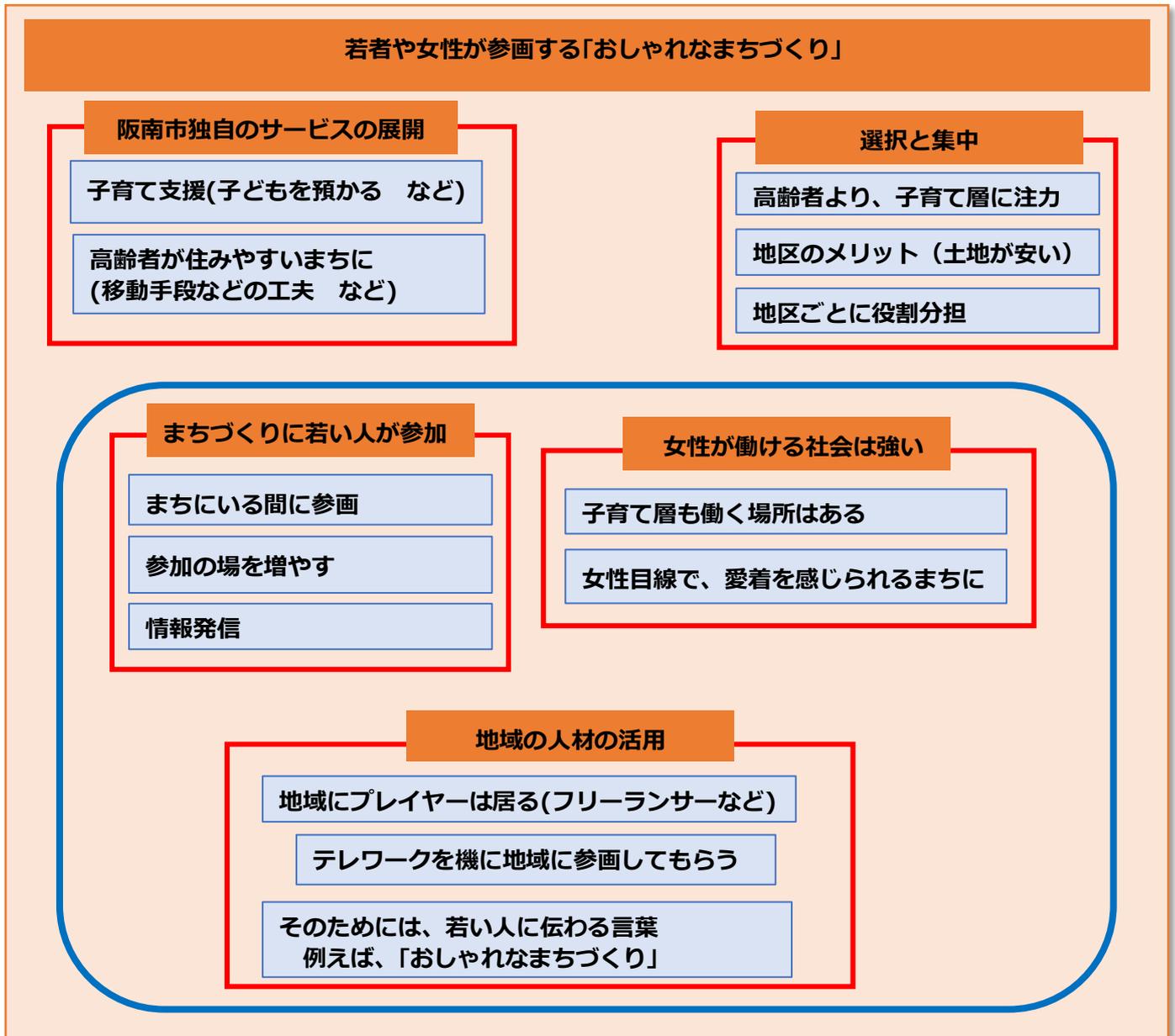
- 空き家、空き店舗などが目立ち、有効活用されていない。
- 自然が豊かな反面、山が未整備で荒れており、観光資源として有効活用されていない。
- 働く場所が少ないことや活気が少ないなど、産業が小さい。
- 外で気軽に遊ぶ場が少なく、公園などの遊具が古いなど、元気な子どもの遊ぶ場所が不足している。

(3)めざすまちづくりの方向性

①地区懇談会ワークショップ

地区懇談会のグループごとのワークショップでは、意見交換をしながら、めざすまちづくりの方向性を共有しました。グループごとの内容は、次のとおりです。

グループ1 下荘地区



総括

- 子育て支援について、市民のニーズに寄り添ったより細やかなサービスが必要。
- 若い人や女性がまちづくりに参画することが必要。地域に人材はいるので、まちづくりに関わるように呼び込むことが重要であり、そのためには、若い人に伝わる言葉での発信が必須。
そのために、コロナ禍によるテレワークの進展を好機とし、市内にテレワーク拠点を設けて関係人口を増やすことで、地域課題に取り組むきっかけづくりができないか。
- 「選択と集中」として、高齢者より子育て層に注力すべき。

グループ2 尾崎・西鳥取地区

まちの良さを知り、魅力を創出し、ありのままのちを発信することで、人々を惹きつけるまち
まちづくりはエンターテインメント

若者が活躍できるまち

次世代にバトンタッチできるまち

若い人が流出するのを防がないと
いけない

若い人が流出するのを防がないと
いけない

仕事がしたくなる（ある）まち

チャレンジしたくなるまち

チャレンジしやすい環境

仕事がしたくなるまち

情報発信力の強化

発信する

まねしたくなる

発信力がある人を惹きつけるまち

住みよいまち

市民が阪南市の暮らしを満喫できるまち
ちょうどよい田舎を発信できれば良い

市の魅力を市民が知ることで
シビックプライドの醸成を

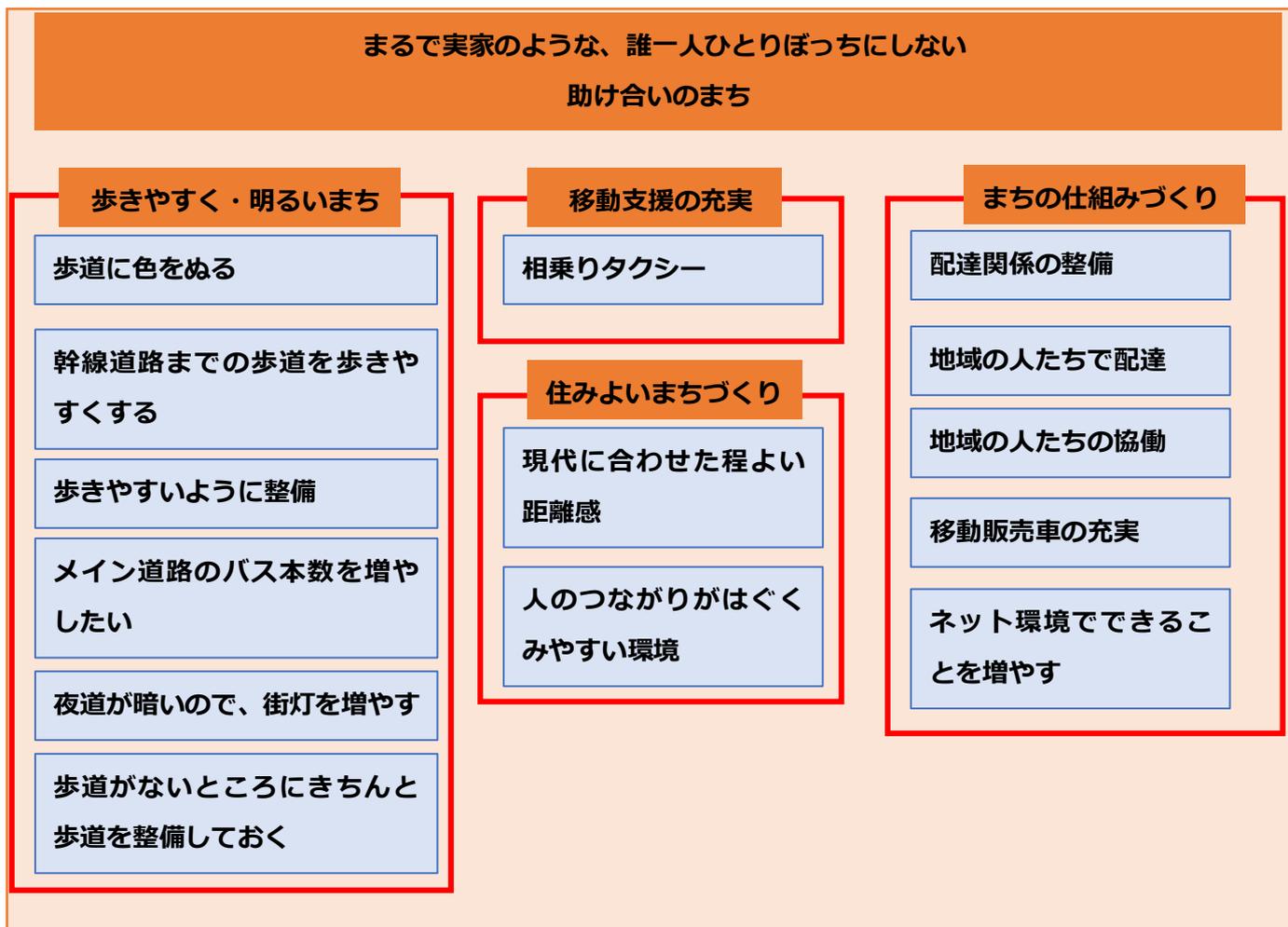
人を迎え入れる環境づくり

先駆的な取組ができるまち

総括

- 若い世代の流出を防ぐには、まずは市民が市の魅力を知ることが重要。
- 働きたくなるまちなど、市の魅力をどんどん発信していくことが重要。
- チャレンジしやすい環境をつくるのが、外から人を惹きつけるまちをつくることにつながる。
- 人を惹きつけるまちをつくるという意味では、発信力がある人やキャリア形成の真似をしたくなる人といった魅力ある人を発見し、先駆的な取組をする環境づくりが重要。まちづくりはエンターテインメントだと思う。

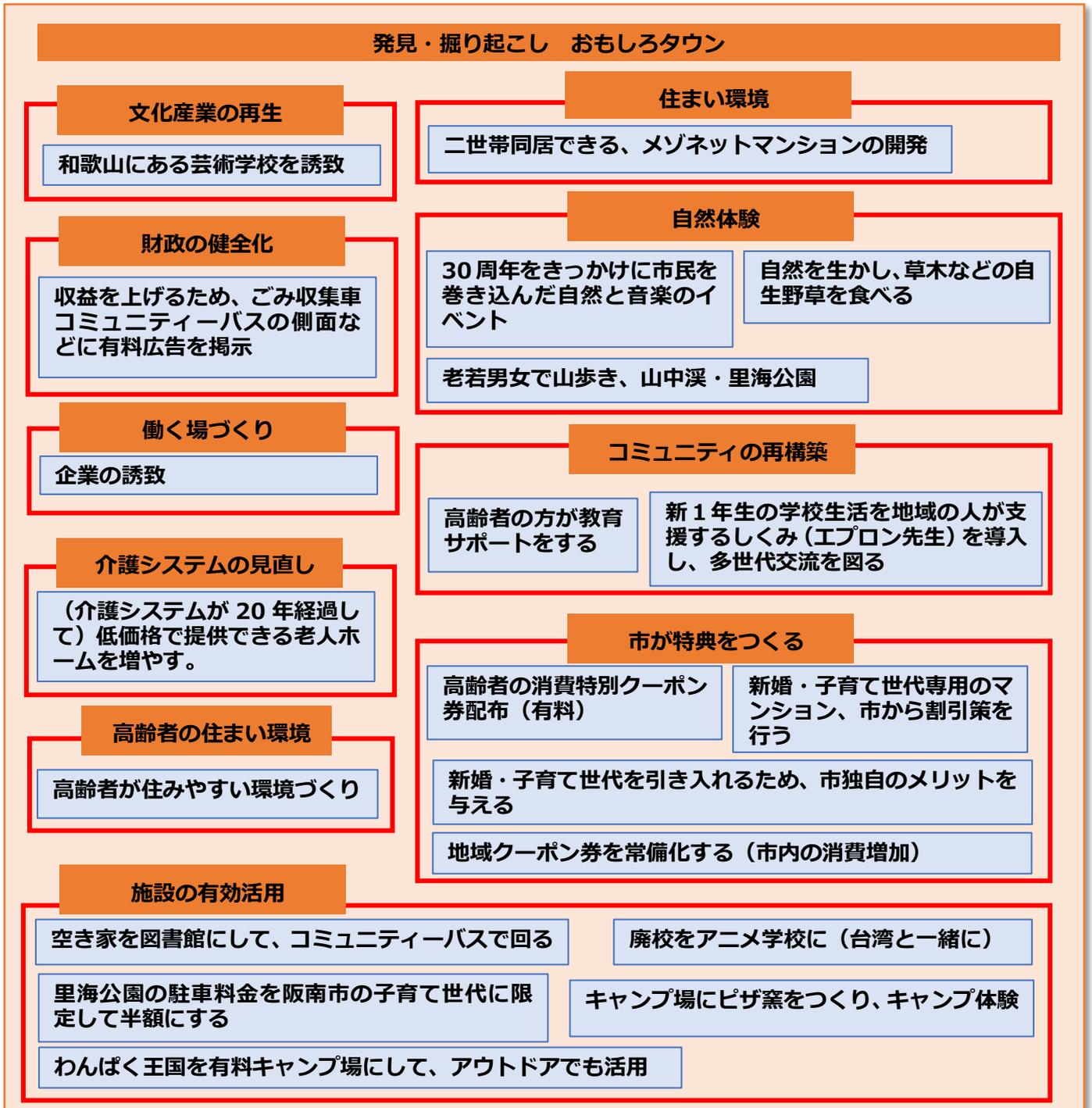
グループ3 東鳥取地区



総括

- 尾崎地区まで足をのばさなくても、買い物などができるような場所があるよい。また、配達環境の整備や移動販売車の充実など買い物難民対策も実施していく必要がある。
- 自宅周辺で完結できるような仕組みを構築できるようにすれば、ネット環境中心にして仕事をされる方にも生活しやすい環境を整えていくことにつながるのではないか。
- 時代に合わせたコミュニティ形成（ご近所とのつながりやコミュニティ内での距離感）に配慮することで、昔から住んでおられる方も、移住されてこられた方も住みよいまちにしていきたい。

グループ4（現地）尾崎・西鳥取地区



総括

- 文化産業では、和歌山にある芸術学校など誘致ができればよい。
- 働く場としては、企業の誘致が必要。
- 住まいの環境としては、子育て世代へのアプローチと、高齢者へのアプローチの2種類があり、前者では市の割引策などの特典策を講じ、後者では二世帯同居が可能なメゾネットタイプの住居の開発を促進するのはどうか。
- コミュニティの再構築として、新1年生の学校生活を地域の人が支援するしくみ（エプロン先生）を導入し、多世代交流を図るのはどうか。
- 施設の有効活用は、アイデア次第で様々な方策が考えられる。

②まちづくりアンケート

まちづくりアンケートにおいて、阪南市のめざすまちづくりの方向性として回答のあった内容は、次のとおりです。

地区	要点	
グループ1 下荘	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を活かした産業の拡大 ・若年層が集まる場所の創出 ・施設利用料や駐車場料金を市内外で区別 ・在宅ワークやアウトドアの定着など、地域資源を活用したPR ・子育て世代の転入促進として、一時保育、家事代行を地域の女性が担う仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地が多い箱作周辺に居住区を増やす ・海洋教育の質を市外でアピール ・ジビエ料理の店を展開 ・リノベーションスクールの実施
グループ2 尾崎	<ul style="list-style-type: none"> ・行政ですべて仕切るのではなく、外に出せるものは積極的に民間へ委託 ・地域の声を聞く機会を増やす ・阪南市独自の行政のあり方をつくる ・せんなん里海公園の夜間開放 ・桜の園を利用したグランピング ・廃校の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・水道料金を安くする ・お試し居住 ・補助金制度（新婚世帯、新築住宅の購入など） ・全国で人気のある店舗を誘致 ・在住者と訪問者とで、自然活用・体験などのメニューを分ける
グループ3 西鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・外貨を稼ぐ手段（クラウドファンディングなど）を講じて、施策を推進する ・ふるさと納税のラインナップを見直す ・企業誘致 ・プロスポーツの誘致 ・わんぱく王国でグランピング ・団体同士での講座やイベントを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗を借りる家賃が高いため、補助などの手段を講じる ・キャンプや野外ワークショップなどの楽しく遊べる場を整備する ・ハイキングコースなどに綺麗なトイレを整備し、若い世代の利用を高める ・ゴミ捨てなどまちをきれいに使っている人に対してポイント付与
グループ4 東鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者など身体機能が弱った人に対して自宅前ゴミ回収の実施 ・せんなん里海公園にキャンプ場を設置 ・スクールバスの運行 ・海沿いでの魚料理などの屋台 ・行政手続きをスマートフォンから予約できるようにする ・施設の統廃合を進め、給食センターを新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・尾崎駅前にインスタ映えするモニュメントを設置 ・市内公立高校に専門性の高いコースを設置 ・人が訪れる場所（釣りスポット、26号沿いのお店誘致など）の設置 ・ふるさと納税に力を入れて、特産品の創出 ・自然を生かした景観の活用（星空観測など）
グループ5 市外	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の誘致 ・子育て世代が魅力を感じる施設や公園の整備 ・e-スポーツなど、最新のスポーツができる施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の有効活用 ・菜園などの高齢者などでも体を動かし生きがいになるような農作の提供

主な意見

- 産業の活性化について、働き口の確保やリタイアされた方の経験の活用が必要。
- 自然を使った体験型アクティビティの設置による、魅力創出や観光客の確保に取り組んでどうか。
- 財政難であっても、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの外貨を稼ぐ手段を講じて、施策などを動かしていくことが重要。
- 空き地や空き家の有効活用や、廃校などの遊休施設活用を行い、魅力あるコンテンツを生み出す。
- e-sportsの開催や、行政のICT活用など、先進技術のまちづくりをすすめる。

(4)まとめ

地区懇談会やまちづくりアンケートにおいて、複数の意見があった内容を中心に、「ア. 地区で気になること・課題にかかる整理」と「イ. めざすまちづくりの方向性」を、分野ごとに取りまとめました。

ア. 地区で気になること・課題にかかる整理

【移動・公共交通について】

- 高齢化が進む中、公共交通が不便なままでは、人口がどんどん流出してしまう。
- 車中心の生活の発言が多数あり。「歩道がつながっていない」や「歩道が狭い」などの理由により市内を歩くという習慣が根付きにくいと、体を動かせる環境づくりが必要である。
- 道路では、小学校の通学路で狭く危ないところがある。

【子育てについて】

- 「子育て支援」を謳っているが、保育所開所時間帯など部分的に市民のニーズに合致していない。
- 子育てについては、世代へのアプローチと市政のリーチに対する意見があり、世代へのアプローチでは、子育て世代の遊び場が少ないこと、市政のリーチでは、子育て世代を増やすための特徴的な事業が見られないことが上げられた。

【買い物について】

- 地区内に買い物する場所が少なく、別の地区に出ていかないと生活に必要な物品を入手することができないなど、生活を地区内で完結させることが難しい。
- 買い物は、移動が不便であるなど、お店に行って買い物をするスタイルから脱却する。

【働く場所について】

- 市内に働く場所が少なく、子育て世代を流入させることが難しい。

【市の魅力について】

- 阪南市の魅力が、はっきりしていない。
- 自然環境など市外に住んでいる人から見ると魅力的なところはたくさんあるが、うまく伝えきれていない上、阪南市内の人に、うまく伝えられておらず、情報の発信力が課題である。

【地域資源・公共施設の利活用について】

- 施設の利活用では、せんなん里海公園の駐車料金が高く、利用促進につながっていないことや、里海公園自体の利活用が進んでいない。他には、公民館の利用者層が固定されており、新しい利用者の流入が起きていない。
- 公園が少なく、遊具なども老朽化していることもあり、子どもが外で遊ぶ空間が必要ではないか。

【市政について】

- 市政として、チャレンジや試行錯誤を許容する必要があるのではないか。
- 市政に対して、将来に希望が持てるビジョンを提示してほしい。
- 泉南地域で展開しているコープ共済を阪南市として導入してはどうか。

【まちづくりの仕組み・プレイヤーについて】

○まちづくりに積極的に取り組んでいる市民は多いが、それぞれが単独で活動しており、連携できればもっと大きな取組ができるため、行政も、それらの人が活躍できるように協力してほしい。

【コミュニティについて】

○少子高齢化に伴い、自治会の運営などにおける地域の担い手不足が深刻であり、空き家の増加も気になる。

○コミュニティの機能低下では、全体的に地域住民とのつながりが希薄であると感じられ、新しく入居されても挨拶などがないため、関係性を構築する糸口が見えないことが課題である。

イ. めざすまちづくりの方向性

【子育て支援などの充実】

- ・ 将来の阪南市を見据えた際、子育て世代をサポートし、暮らしやすい環境を整備することが重要
- ・ 高齢者福祉だけでなく、子育て層に力を入れて、阪南市の将来構造の見直しを図ることが重要

【若年層の流出抑制策、女性のまちづくりへの参画】

- ・ 若い人や女性に対しまちづくりへの参画を促すためには、今の時代にあった働き方を支援できるスペースや機能を整備することが重要
- ・ 市の魅力を発信し、市民（特に若年層）へのアプローチを強化
- ・ 多様な働き方に対して、チャレンジしやすい環境を整備することが重要

【財政難の解消】

- ・ 税収だけでやりくりするだけでなく、外貨を稼ぐ手段を講じて、施策を展開

【観光の推進】

- ・ せんなん里海公園やわんぱく王国などを利用した自然体験アクティビティを増やし、観光コンテンツの磨き上げを実施

【地域プレイヤーの発掘】

- ・ 市の魅力を人材からみたとき、発信力のある人やキャリア形成の真似をしたくなる人といった先駆的な人材を取り上げ、多様な地域プレイヤーによるまちづくりの様相を示すことが重要

【買い物などの環境整備】

- ・ ICT技術や地域内での連携などを利用して、買い物がスムーズにできる環境を整備することが重要

【時代に合わせたコミュニティの形成】

- ・ 新旧居住地で形成されているそれぞれのコミュニティをうまく融合させ、住みよいまちにしていくことが重要

【住環境の整備】

- ・ 子育て世代と高齢者へのアプローチを分けて、それぞれにメリットのある住環境を整えることが重要

【公共施設の有効活用】

- ・空き家や廃校など、使わなくなった公共施設について、企業誘致や地域内での利用促進など、阪南市の魅力が増すとともに、地域に根差した管理・運営ができる使い方を検討することが重要